

二〇一八年五月二五日

松手入終えて透けたる青い空

こすもす

万緑や千古の杜に鳥語降る

はく子

二月堂より遠望す青根かな

こすもす

茶摘女の振り分けに籠担ぎけり

なつき

高梯子まだその上の松手入

はく子

二〇一八年五月二四日

薫風やバス待つよりは歩きましたよ

明日香

鹿の子に生え初む小指ほどの角

はく子

千枚の代田に写る谷戸の空

隆松

二〇一八年五月二三日

松手入鋏の音のリズミカル

せいじ

紙袋の音に馳せ来る親子鹿

明日香

柏餅一男一女育てあげ

小袖

つぶらなる鹿の瞳に癒やしあり

はく子

二〇一八年五月二二日

遍路衆去りて甘茶のやかん空

なつき

すれ違ふ汗の匂ひや部活女子

智恵子

卯浪立つ沖を行き交ふ貨物船

三刀

緑陰に絵筆を運ぶ豆画伯

満天

能管の闇をつんざく薪能

うつき

触れし手に卵の花こぼす垣根かな

よう子

蔵構えつづく大和路麦の秋

菜々

二〇一八年五月二一日

畑の物すくすく育ち今日小満

菜々

万緑や千年楠の風騒ぐ

やよい

手刀で蜘蛛の囀ひつつ進む

明日香

薪能朱の翳ゆらぐ城櫓

うつき

二〇一八年五月二〇日

父祖の地の変はることなき麦の秋

菜々

ソーダ水沖のタンカー透かし見る

智恵子

蜘蛛の囀のつなぐ羅漢の肩と肩

なつき

二〇一八年五月一九日

一郷を明るうしたる麦の秋

三刀

緑陰に車座となる吟行子

せいじ

今年又ようこそ此処へ燕の巢

たか子

モダンジャズ洩るる古書肆に夏帽子

智恵子

山葵田の湧き水の楽心地よし

あさこ

シャッター街軒にいくつも燕の巢

さつき

毎日句会みのる選・二〇一八年五月二七日